

これまでの討議の整理，今後の課題

1．荷重指針の位置付け，目的

性能設計を実現する、推進するための荷重指針

= コンセプト + 具体的な方法

具体的な検討項目

- (1) 対象範囲
- (2) 用語の定義、共通の枠組み・コンセプトの提示
- (3) 荷重データの整理方法
 - 原則論，荷重ごとの特性を踏まえた個別論
- (4) 「荷重データ→設計荷重」の処理方法
 - 原則論，荷重ごとの特性を踏まえた個別論
- (5) 荷重データの収集・蓄積の仕組み作り
- (6) 設計者、基準策定者への普及の推進

2．対象範囲

地震、風、地盤、環境、衝撃、(活荷重)

3．用語の定義、共通の枠組み

- ・ 共通の認識をもてるよう，齟齬がないよう必要な用語は定義する．
- ・ 荷重間で，考え方やアプローチに違いが生じないよう共通の枠組みを作る．
- ・ 性能設計体系での「荷重の取り扱い」についてのコンセプトを示す．

<これまでの討議>

- (1) 用語の定義
 - ・ 荷重ではなく、作用で統一する．
 - ・ 「荷重因子」の名称の見直し．
 - ・ 「偶発荷重」の定義を明確にする．
- (2) 共通の枠組み
 - ・ 確率的な扱いを基本とするものの、確定論的な扱いも許容する．
 - ・ 荷重分類
 - ・ 荷重を組み合わせる際に必要．
 - ・ ひとまずは、ISO2394 の分類を尊重して定義．その上で，荷重ごとに分類を行う．
- (3) コンセプト
 - ・ オープンであること． 他

4．荷重データの整理方法

結果的に荷重ごとに扱いに違いが出ることは予想されるものの、できるだけ共通な整理方法で荷重データを示す．

<原則論>

- ・ どの指標で整理すべきか？ 分布のみか、特性値か、公称値か．
- ・ 荷重データの収集期間と不確実性についての明示．

<荷重ごとの個別論>

- ・ 風：ある一定の標高での風速分布．10m なのか、50m なのか？
- ・ 地震：地震波そのものか？ 確率的な提示は馴染まない．
- ・

5．荷重データの処理方法の提示

「荷重因子（仮称）→設計荷重」へ変換する方法論の原則と具体的な方法について示す

<これまでの討議>

- ・ 荷重組み合わせ則を基本とする．
- ・ 非線形の場合の取り扱い．
- ・ 偶発荷重の取り扱い．
- ・ レベル2地震動のような大きな荷重の取り扱い．

6．荷重データの収集・蓄積の仕組み作り

荷重データが常に最新のものに更新されるような仕組み作りをする．

<これまでの討議>

- ・ 具体的なデータ収集方法
- ・ Web を活用した公開方法
- ・ メンテナンスの問題

7．設計者、基準策定者への普及の推進

荷重指針委員会の内外の活動を通じて、荷重指針に基づく荷重の取り扱いについて普及を図る．

- ・ 収集したデータに基づく部分係数の例示（付属書）
- ・ ベンチマークテストの実施

今後の進め方（佐藤先生）

- ・ 追加討議
- ・ 幹事会の組織
- ・ 荷重ごとの策定作業

以上